

◎第4回 大津市プラスチックごみ削減勉強会

日時：2024年1月19日（木）午後1時半～4時

会場：市民活動センター 交流スペース

参加：7名

内容：① 特別展の企画の打ち合わせ

特別展「プラスチックごみの未来に向けて」

日時：2024年2月10日（土）～2月26日（月）

場所：ウォーターステーション琵琶1F ロビー

目的：設立4年となる勉強会のこれまでの学習や施設見学や情報をまとめ、活動の報告と問題解決のための提言をパネルにして掲示する。

来館者からの意見を聞く。（ポストイットやノートを利用）

パネル内容：川ごみ・海ゴミ問題、マイクロプラスチック

プラごみ削減のための容器包装リサイクル法や国際的な取り組み

回収されるプラごみ（容リプラ発泡トレーパーペットボトル）のゆくへ

勉強会の紹介と活動のふりかえり

プラごみクイズ（パネル用に作成）

プラごみの種類別実物展示など

広報：チラシ配布、新聞に案内の掲載依頼 → 2月15日朝日新聞朝刊、掲載

② パネル「私たちの提言」の原稿読み合わせ

全員からの提案やアイデアについて、会の提言とするために話し合った。

＜私たちの提言は、別紙PDFにてお読みください。＞

③ （2/9）前日準備と（2/16）座談会の予定について

④ 「第6回 子どもまちづくりフェス」にプラごみクイズで出展について

日時：3月20日（水・祝）10時～15時

場所：大津百町館内（フェスは、曳山資料館を中心になかまち商店街）



記念撮影（2024/1/19）

★ 特別展 活動報告は、別紙にてお読みください。

◎座談会 「特別展から思うこと」 開催

日時： 2月16日（金）午後14時～16時

場所： ウォーターステーション琵琶 ロビー

参加者：琵琶湖環境科学研究センター佐藤研究員、おおつ環境フォーラムの竺先生  
計11名

内容・・・(感想意見) 展示されている「プラごみのゆくへ」は、情報として発信する価値がある。

市民・消費者の分別や回収における選択肢がふえる。

行政を動かすのは難しいが、忖度しないでどんどん発信したらどうか。

マイクロプラスチック問題の大元をたたかなくては解決しない。今や、ナノマイクロプラスチックが、人・生態系に影響すると言われ、洗濯排水に1次マイクロプラスチックが混入し下水処理により除去できないと研究報告があることなど、発信ができていない。

ポイ捨てゴミなどをどう解決するかは、社会問題としてとらえる必要もある。

デポジット制度がペットボトルのポイ捨てがなくなるか。レジ袋の有料化と同様に、できることはあるのではないか。国の制度から変える必要がある。

ドイツでは、NPOと行政の協働でゴミ対策が進められ、うまくいっている。

行政への提言は効力がない。むしろ、楽しい活動を示し行動する方がよい。

\* 座談会で先生方からいただいたアドバイス・ご意見をふまえ、今後の勉強会の方針を検討

- ・ 地域でパネル展示などを通じて、もっと情報発信をする
- ・ 身近で面白い活動を展開する。こども対象、若者にも声かけをする。
- ・ マイクロプラスチック問題は、脱プラスチックにむけてもっと勉強をしよう。

(座談会の様子)



## ◎ 第6回 子どもまちづくりフェス に出展

(子どもまちづくりフェス)

日時：2024年3月20日(水・祝)10時～15時

場所：大津百町館 と 大津曳山展示館・なかまち商店街およびその周辺

主催：NPO法人 HCCグループ

目的：環境・経済・社会・福祉をテーマにする団体が出展し、子供たちがその活動を体験することで、より良い社会づくりのための体験学習をする。

内容：大津百町館を中心に、10数件のブースが配置される。子どもサポーター(21名)も出展者としてブースに入りお手伝いをする中で、大人との交流・発信力・協調性を体験をする。

参加費：出展者も参加者も無料

スタンプラリー：参加ブースでスタンプを押してもらい、5つ集めるとプレゼントをもらえる。

- (当会の出展)
- ・ プラごみクイズ 2023版を改訂して、2024版を作成
  - ・ 紙芝居形式は、これまでと同様だが、出題数 15問に。所要時間は15分。
  - ・ パネル1枚、机1台、椅子6脚。
  - ・ 9:30過ぎに子どもサポーター3名が到着。クイズの説明。開会式。
  - ・ 10時～11時まで、3名の子どもサポーターさん(小3、小4、小5)が中心でクイズを出題。スタッフはフォローと見守りをしていた。
  - ・ その後は、スタッフ2名1組が交代しながら進めた。
  - ・ 12時から昼食休憩。事前予約した出店のお弁当などを楽しめた。

- (感想)
- ・ 子どもサポーターの小学生が、物おじしないで積極的に行動することに驚いた。3Rから4Rの内容もマイクロプラスチック問題など、いろいろな環境の知識もすでに知っていること、出題だけでなくコメントも大人顔負けにアドリブを利かせていた。
  - ・ 子どもと共同で活動することは、我々にとっても啓発となり楽しい活動だった。
  - ・ あまり広くない大津百町館が会場であったため、これまで参加したイベント会場と違った感じがあった。館内が一日中、にぎやかで、出題者と回答者の子どもとの距離が近く、気楽で和やかだった。ふれあいが多くできたため充実感も大きかった。
  - ・ 昼食タイムがあったので、休憩ができ他の出展や出店も楽しむ時間があった。

(会場の様子)

